

〔科目名〕 対人コミュニケーション	〔単位数〕 2	〔科目区分〕
〔担当者〕 植田 栄子(てるこ)	〔オフィス・アワー〕 時間: オフィスアワーは授業時に紹介 場所: 研究室 607	
〔科目の概要〕 人間関係を円滑に構築するための「(マスク) コミュニケーション入門」クラスである。新時代でも学生・社会生活を充実させる基本的要素に対人関係の充実がある。授業では、自己分析と他者理解を進め、相手に配慮しながら話したり聞いたりできるコミュニケーションに関して、様々なタスクを通して体験的に学ぶ。 コミュニケーション力の養成と内在化のために、講義、DVD 視聴、ワーク、グループ討論、振り返り、まとめという演習を実践的に積み重ねる。コミュニケーション力の基本となる 1) 情報伝達力と 2) 感情表現力を強化する。また、人間学エニアグラムに基づく多様な価値観を学んで自己分析を深め、長所も短所も理解して多様な価値観を見直す。さらに、自分の考えを相手にとってわかりやすく印象的に説明するプレゼンテーション力を向上させる。また、広く異文化コミュニケーションに対する基本知識も養う。 コミュニケーション力育成のアクティブラーニングを中心に、自己分析と他者理解、思い込みの打破、他者とは違う自分の自由な発想や価値観を認め、表現する楽しさを味わってもらいたい。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 コミュニケーション力の向上は、学生生活を充実させ人間関係を豊かにする基本である。さらに、専門の経営学・経済学を個人や組織の中で生かしていくには、自己分析と他者理解に基づく対人コミュニケーション力、プレゼンテーション力、グループワーク力が重要である。単なるスキル習得だけに留まらない人間力としての「対人コミュニケーション力」を着実に高め、人間の多様性を学ぶ人間学エニアグラムを知ることによって将来の面接、就活、ビジネス交渉、社会参加、リーダーシップ養成、コミュニティ作りなどにおいて役立つ。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 ①対人コミュニケーションに関する基礎概念を学び、人間学エニアグラムを応用して実践力を養成する。 ②自己分析と他者理解を深め、自他を尊重する聴き方および効果的な表現方法を学ぶ。 ③グループ活動や様々なディスカッションを通して、対人コミュニケーション力の根源となる、創造的・積極的・共感的な「人間力」を最終的な目標として高める。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 多様なタスク活動を通して、対人コミュニケーション力の向上を受講生は実感している。毎回のコメントシート記入を通して、自己分析力・表現力・言語力が向上し、苦手意識を持っていた多くの受講生が、コミュニケーション力の向上を実感できている。タスクが契機となって、交流の場が生まれ、様々なタスクが人間関係を広げる貴重な経験となり、自発的に継続を決意するという成果が上がっている。グループ分けを多く行うのは授業目的のためである。		
〔教科書〕 『対人コミュニケーションの人間学 ～エニアグラムによる自己分析と他者理解』(植田栄子他) 2020 年丸善出版		
〔指定図書〕 授業の中で適宜紹介する		
〔参考書〕 必要に応じて紹介		
〔前提科目〕 なし		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・グループワーク、コメントシート記入、話し合いを行う。恥ずかしがらず積極的に取り組んでほしい。 ・体験型学習が主であり出席重視。意欲的にプレゼンテーションなどで成果を上げるとボーナス点が加わる。 ・評価は総合的に行う。なお、開講後の状況により、スケジュールは適宜調整することがある。		
〔評価の基準及びスケール〕 評価基準は学生便覧に準ずる。 スケールは、授業参加度(出席、課題提出、発表 40%)、期末レポート(40%)、コメントシート(20%)活動参加が受講条件であり、欠席3回以上は減点または評価不可となる。公欠届など欠席届を提出すること。		

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 マスクの時代だからこそ、コミュニケーション力がアップすると、大学での人間関係、さらにはその後の就職活動 社会生活、仕事、そして自分の未来の状況が、どんどん好転していきます。 苦手意識を持っている人は特に、ぜひ勇気を出して他者と交流するコミュニケーションの醍醐味を味わってください。自分のことを話し、他の人の話を聞いて、お互いが深く知り合う楽しさを味わってください。 今のあなたより、確実にもっと積極的に人との関係性を深めていけるようになります。 不自由な時代だからこそ、いろいろな面から、人とのコミュニケーションのコツを掴んでいってもらいたい。 ・コミュニケーション活動の練習の場であるため、おしゃべり、スマホなど授業に関係ない行動をとると減点、特にスマホは厳禁。受講態度が他の学生にとって迷惑行為となる場合、退室を命じます。	
〔実務経験〕 海外大学での教育研究活動以外の実務経験(現地の商工会議所など異文化との交渉にかかる実践経験)等を活かし、自己および他者との関係の分析、構築、発展、維持、修復、交渉などを進めるコミュニケーション力を修得する授業です。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ:1) 新しい時代の「リスク・コミュニケーション」の基礎知識 2)オリエンテーション 内 容: ペアワーク(共通点探し)を通して、初対面における対人コミュニケーションに必要な雑談力、質問力、好奇心を深める。・「マスク・コミュニケーション」力を向上させる非言語的要素に気づく。 課題: マスクコミュニケーションにおける目、視線、笑顔、声の調子など日常で意識的に実践する。
第2回	テーマ:1)新しい時代の「マスク・コミュニケーション」の基礎知識とポジティブな印象の強化 内 容:・無意識を意識化する(母音だけの発声、無音での読唇を通した障がい者の疑似体験)・目、視線、ウィングなど「非言語的要素」による発信力と受信力を高める。・日本語の音声学的知識 課題:「サル化する人間社会」(山極寿一)読解 *DVD:NHK「Cool Japan ニッポン人への大ギモン」
第3回	テーマ:日本語の音声学的基礎知識と発声練習 内 容: 1) 音声学の教養(調音点、調音法、50音図の法則、日本語と英語の音声学的特徴 2) コミュニケーション学的知識 3) NHK スペシャル(DVD)「日本人の言語力」視聴 課題レポート(次週提出):「マスク・コミュニケーション」時代の自己と他者への思いやり行動とは?
第4回	テーマ:論理的コミュニケーションの必須要素 内 容:1)問答タスクによる質問力養成 2) 質問力および説明力に関する自己分析 3)コミュニケーションの言語学的特性 4)日本語の第一人称、第二人称の多様性 5)日本語会話を弾ませる4要素 宿題: コミュニケーションの言語学的特性に対する回答(次回)
第5回	テーマ:質問力の重要性、説明力の基本 内 容:質問力のまとめ、空間説明タスク、「エニアグラム」のタイプチェックシート 課題:「感染症パニックを防げ!リスク・コミュニケーション入門」(岩田健太郎)読解とまとめ 課題:「一日 SOME 善」を実践し、期末レポートで報告
第6回	テーマ:同じタイプのグループワーク体験1 内 容:授業内容: 小グループ(類似タイプ)の共通点探し、説明タスク、 課題:「プラスアルファの学びとして性格分類」(名越康文)読解とまとめ
第7回	テーマ:同じタイプのグループワーク体験2 内 容:・小グループ(類似タイプ)で調子の良いとき悪いときのエピソードを含む1分・2分・3分スピーチ、・調子のわるい時に関する自己肯定と他者理解 課題: 3分間スピーチの練習
第8回	テーマ:多様なタイプのグループワーク体験1 内 容:・第一印象タスク(実際との違いを意識化する。第一印象の形成要素を分析する。) ・3分間スピーチの発表(ジェスチャー、アイコンタクト、スピーチの客観分析と修正) <課題:期末レポートの内容配布>
第9回	テーマ:多様なタイプのグループワーク体験2 内 容:・伝言タスク(正確な情報伝達に必要な話し方と記憶に残る正確な聴き方について)情報発信者と情報受信者のそれぞれに関して自己分析する。 課題: 自分の囚われを知り、自己変革に必要な目標を設定する。

第10回	テーマ:多様なタイプのグループワーク体験3(男女混合での新グループ) 内 容:・徹底した話し合いによる合意形成タスク 課題:「大学をPR するプレゼンテーション」準備
第11回	テーマ:プレゼンテーションの表現練習1 内 容:参考DVD 前半視聴。プレゼンテーションで説得力ある事実と根拠を述べる。 ・構成、理由、エピソード、流れと時間配分を考える。 課題: プレゼンテーション(伝えロケット)原稿の作成
第12回	テーマ: プレゼンテーションの表現練習2 内 容:参考DVD 後半視聴。プレゼンテーションで効果的な感情表現を取り入れる。 課題: プレゼンテーション(伝えロケット)原稿を基にした実践練習とフィードバックの記述。
第13回	テーマ:プレゼンテーションの練習、発表、相互評価 内 容:原稿の修正を相互評価を基に行う。なるべく原稿は見ないようにジェスチャー、アイコンタクト、リピートの非言語的表現の多用。時間配分を考慮した発表練習。 課題: 最終発表に備えてプレゼンテーションの最終練習を行う。
第14回	テーマ:プレゼンテーション力の発表・評価 内 容:各グループから選出された発表者によるプレゼンテーション大会。聞き手は評価表を記入して、客観的なコミュニケーション分析を行い、短時間での的確な記述を通して具体的に学ぶ。
第15回	テーマ:日本人らしさ・自分らしさを生かす「対人(マスク)コミュニケーション力」と「プレゼンテーション力」 内 容: ・プレゼン上位者発表と講評 課題: 今後のコミュニケーション力向上の課題と具体的実践計画の発表
レポート	詳細は授業中に指示